

### (3) 鳥類

#### ○自然環境

鳥類も生活の場である自然環境の状況によって生息する種類や数は大きな影響を受ける。四国の北東部に位置する香川県の北部には瀬戸内海があり小豆島を始め大小 110 ほどの島々が点在する。南部には主に徳島県と境界をなす標高 500～1,000m 前後の讃岐山脈が東西に横たわっている。瀬戸内海と讃岐山脈との間には主に高松・丸亀・三豊平野からなる讃岐平野が広がっている。讃岐山脈を水源とする河川は県内で唯一の一級河川である土器川を始め、財田川、綾川、春日川、新川、鴨部川、湊川などあるがいずれも規模は小さく、水流は乏しいため、古くから灌漑用のため池が山麓から平野部に数多く作られている。讃岐山脈から平野部にかけては比較的緩やかな丘陵地帯が見られる。平野部には 100～500m 前後のビュートと呼ばれる円錐状やメサと呼ばれている台地状の規模の小さな山々が点在している。

海上部は畿内と九州、瀬戸内海沿いの主要都市の港を結ぶ海上交通の要となっているほか、漁船、レジャーボートが頻繁に行き来している。

#### ○地域別の生息状況

海上部では近年、普通種となった留鳥のウミウの他、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、スズガモ、ウミアイサなどのカモ類やセグロカモメ、ウミネコ、カモメ、ユリカモメなどのカモメ類のほか、局地的にオオハム、シロエリオオハム、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリなどの冬鳥が生息している。自然海岸が残っている沿岸部や無人島では、数は少ないものの留鳥のクロサギ、ミサゴ、ハヤブサが繁殖している。アマツバメは夏鳥として渡来し、東讃の無人島の岩場の裂け目で子育てしている。瀬戸内海は古くから海上交通の要であり漁場でもあるため、船の往来と近年では釣り人が無人島などに上陸するなどこれら鳥たちの生息が脅かされている。

瀬戸内海沿いの浅瀬は古くから製塩や農地、工業開発などの目的で埋め立てられており、海辺の生物のゆりかごとなっている干潟は、現在では河口などで僅かに見られる程度である。干潟の後背地に見られた湿地や雑木林は海浜公園や生産性の高い野菜などの農耕地に置き換えられることが多く、土壌改良などで乾燥化が進み、水辺を好むシギ・チドリ類やサギ類などに影響が出ている。埋め立て後にできた荒地ではコチドリ、シロチドリ、コアジサシ、ヒバリなどが繁殖する場所があるが工業用地などへの転用により、繁殖地は数年で消滅するケースが多い。海岸沿いの雑木林、ヨシ原、農耕地周辺ではヒバリ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、ツグミ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワなどの小鳥類も多く生息しているが、これらにも開発による影響が見られる。シギ・チドリ類や小鳥類などが減少することでこれらを餌としているオオタカ、ハイタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウなどの猛禽類も減少している。主にネズミ類を餌としているトラフズク、コミミズクなどの猛禽類は稀にしか観察できなくなっている。

中国山地と四国山地に囲まれた讃岐平野は瀬戸内海式気候で温暖であり、災害も少ないことから古くから開発されてきた。人口密度も高く、他県で見られるような広大な農耕地や雑種地は見られない。そうした場所を好むチュウヒ、コチョウゲンボウ、コミミズクなどの猛禽類を見ることは稀である。

平野部には 100～500m のビュートと呼ばれる円錐状やメサと呼ばれる台地状の規模の小さな山々が点在している。花崗岩の上部に安山岩が見られ、いずれも浸食地形であり安山岩地帯は急峻な崖状になっている場合も多い。花崗岩地帯でも過去の採石により、急峻な崖状になっている場所も多い。そうした場所ではハヤブサの生息地となっているカ所もある。平野部から山麓に多く点在するため池は、秋から冬場にかけて灌漑用の水を落とすことが多く、浅瀬の水辺を好む旅鳥や冬鳥に安住な場所であったが近年

になり、太陽光発電装置が設置される池が増えてきたことなどから淡水性のタシギ、アオアシシギ、ツルシギ、タカブシギ、オジロトウネン、ヒバリシギ、ウズラシギやイカルチドリ、コチドリなどのシギ・チドリ類やカモ類、サギ類などに影響が出ている。太陽光発電装置は効率上、平野部の大きな池で設置されることが多い。かつては、時折見られたオオハクチョウや、現在も少数若しくは時折見られるマガン、ヘラサギなど水辺を好む大型の冬鳥への影響も懸念されている。

中小河川の河川敷では運動公園化、護岸工事などの影響で砂礫地やヨシなどの群生地が消滅し、堤防林が伐採されるなどでイカルチドリ、コチドリ、オオヨシキリ、ヒクイナ、クイナ、コゲラ、シジュウカラ、ツグミ、アトリ、カワラヒワ、イカルなどの生息場所が荒廃している。上流域でも砂防ダムや林道開設などによる溪流環境の悪化などでヤマセミは全く見かけなくなった。溪流沿いに生息しているカワガラスも少なくなっている。

昭和 40 年代に製塩方法がそれまでの流下式枝条化併用塩田からイオン交換膜製塩に変更されたこと、家庭用の燃料もプロパンガスの普及によって里山の山林は放置された結果、人の手が入ることで維持されてきたクロマツ・アカマツ林は本来の自然林である暖帯林へと遷移が進んでいる。また、竹林が放置されたカ所ではマダケやモウソウチクが優先種となっているところもある。マツ林からコナラ、アラカシなどの二次的自然林になった場所ではアオゲラ、シジュウカラ、ヤマガラなどの留鳥やキビタキ、サンコウチョウ、アカショウビンなどの夏鳥は以前に比べ見かけるようになった。サシバは里山から山間部にかけて県内各地で見られた夏鳥であるが、棚田などが放置され農薬の影響でエサとしていたヘビやカエルなどが減少したこともあり、限られた場所ではしか見られなくなった。

県内では標高 800m 前後から温帯林が見られるが、本来のブナ林は大滝山、イヌシデ林が大川山に僅かに見られるだけである。温帯林に本来、生息しているゴジュウカラ、コガラ、オオアカゲラなどには厳しい条件となっている。

#### ○レッドデータブックの見直しについて

県内で確認されている野鳥は、2004 年に発行されたレッドデータブックでは 18 目、61 科、299 種（外来種除く）確認されていた。その後、新たに確認されたものが追加され、2020 年 2 月現在では 21 目、65 科、320 種（外来種除く）となっている。また、2004 年に発行されたレッドデータブックでは絶滅危惧 I 類（CR+EN）16 種、絶滅危惧 II 類（VU）19 種、準絶滅危惧（NT）30 種、情報不足（DD）6 種で計 71 種が取り上げられていた。今回の発行に当たっては前回から 15 年経過したことで自然環境は少なからず変わってきており、今後の保護に生かす意味もあり、日本野鳥の会香川県支部会員が海上部も含めた県内全域での生息状況を調べ直した。個人記録、過去の文献なども参考にしながら調査関係者が定例的に打ち合わせを行い、全般的な見直しを実施した。デジタルカメラの普及によるより確実な観察報告の増加なども見直す要因の一つである。今回の見直しにより、絶滅危惧 I 類（CR+EN）9 種、絶滅危惧 II 類（VU）35 種、準絶滅危惧（NT）40 種で計 84 種となった。

本来の自然環境を重要視する観点から種を選択した。順位付けは県内での自然に関わる依存度、影響度を考え、年間を通じて生息している留鳥、春から初夏にかけて子育てのために東南アジアなどから渡来する夏鳥、シベリアなどから越冬のため渡来する冬鳥、春と秋に渡りの途中立ち寄る旅鳥の順序とした。なお、一過性の旅鳥、迷鳥は対象外とした。

今回の対象種、変更種などの概要は次のとおりである。

絶滅危惧 I 類（CR+EN）では、以前は主要河川や山麓周辺のダムやため池で少数生息していたが最近、

見かけなくなったヤマセミ、四国の他県では温帯林に少なからず生息しているオオアカゲラは近年見かけなくなってきていることから取り上げた。ヨシゴイは生息に適したヨシ、ガマなどの生えた浅瀬の水辺の環境が河川やため池の改修工事の影響で減少したこともあり、渡りの時期に稀に見かけるだけとなったこと。トラフズク、コミミズク、コチョウゲンボウは広大な農耕地や雑種地などが越冬地の条件であるが県内ではそうした場所は限られていることから対象種とした。また、最近になって繁殖時期に少数であるが見かけるようになったブッポウソウを注意深く見守っていく必要から新たに追加した。対岸の岡山県などでは近年、巣箱かけを行うなどの保護活動により渡来数が増加している。前回、対象種であったクロツラヘラサギ、ヘラシギ、カラフトアオアシシギ、コシヤクシギ、ウミスズメは記録も少なく、一過性若しくは迷鳥性の傾向が大であることから今回は除外した。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU) には、海岸沿いの干潟、三豊干拓地周辺、平野部のため池などでの開発工事などで数を減らしているシギ・チドリ類を中心に新たに対象種となったものが多い。オオメダイチドリ、オオジシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ツルシギ、コアオアシシギ、ミユビシギ、オジロトウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、キリアイ、コアジサシなどである。クロサギは繁殖期の海上調査でもごく少数しか確認できなかった。ヒメアマツバメは旧県庁建屋ビルに営巣していたコシアカツバメの巣を利用していたものが数十羽確認されていたが巣が撤去されたりした結果、ほとんど見られなくなった。キバシリは四国山地の針葉樹林、針広混交林で少数が見られるだけであったが、近年、讃岐山脈沿いでも繁殖が確認されるなど目撃例が数例出ていることから対象種とした。ヤマシギは平地から山沿いの林縁、アオシギは溪流沿いでいずれも冬鳥として確認されているが数は少なく対象種とした。讃岐山脈沿いで繁殖がごく少数確認されているツミ、オオコノハズク、夏鳥のサシバは限られた箇所でも繁殖期に確認されるだけとなった。以前、夏鳥として山間部に渡来していた亜種サンショウクイも近年、繁殖期の観察例はほとんどない。冬鳥のハギマシコ、オオマシコ、主に冬鳥として観察されるイスカは讃岐山脈の大川山などで観察されるが渡来数は少なく、年により観察されない場合もあるが対象種とした。

準絶滅危惧種 (NT) には、前回、トモエガモを絶滅危惧Ⅱ類 (VU) としていたが、少ないものの定期的に観察されていることから見直した。海上調査で判明した冬鳥のオオハム、シロエリオオハム、ウミウは限定された場所に少数渡来している。夏鳥のアマツバメは東讃の無人島での繁殖が確認されたが数は少ない。夏鳥のササゴイは、隣県の愛媛県、岡山県では一部で集団繁殖しているが県内では少なく単独での観察例が多い。アマサギは一部繁殖しているが数が少なくなっている。ヒクイナは河川、水田などの湿地で通年見られるが、場所は限定的で数は少ない。讃岐山脈沿いの主稜部に夏鳥として渡来するカッコウは前回対象外であったが、数も少なく対象種とした。シギ・チドリ類では場所が限定的で数も少ないタゲリ、ケリ、ムナグロ、ダイゼン、イカルチドリ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、キョウジョシギ、オバシギ、ミユビシギ、タマシギを取り上げた。冬鳥のアリスイ、チョウゲンボウ、ツリスガラ、カヤクグリは、前回対象外であったが数は少ないため取り上げた。讃岐山脈の主稜部で少数しか見られないコガラ、ゴジュウカラ、溪流沿いで数を減らしているカワガラス、山間部で一部繁殖していると思われるトラツグミも数が少ないことから新たに対象種とした。

種の選定にあたっては、今回対象種とならなかったが、生息数が少ない留鳥のヤマドリ、アオバト、ミソサザイ、イカルや夏鳥のクロツグミ、大半が冬鳥であるが一部繁殖しているオシドリなどについては今後も生息状況を注意深く見守っていく必要がある。

鳥類は繁殖地、越冬地を地球規模で移動する種も多く、海外での環境変化に起因した増減もあるが、ま

ずは身近な生息環境を守ることが何よりも重要であることは言うまでもない。今後も継続して生息状況を見守っていく必要がある。

(川南 勉)

ウズラ <i>Ooturnix japonica</i> (キジ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑧* 冬鳥として渡来していたが近年観察例がない。		
種 の 特 徴	全長約20cm。体型が丸く、尾が短い。上面は褐色で黒色と淡黄色の横斑と縦斑がある。下面は黄褐色で胸から脇には赤褐色と黒の縦斑がある。		
分 布	旧北区。本州中部以北で繁殖し、本州中部以南で越冬する。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として渡来する。過去には海岸や河口の草地、広い農耕地などでまれに見られたが、最近ではほとんど見かけない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川敷や農耕地の改修工事により、草地などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県:絶滅危惧 I 類(CR+EN), 徳島県:絶滅危惧 II 類(VU), 愛媛県・岡山県:情報不足(DD)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17		執筆: 川南 勉, 大川庫弘



被写体: 観音寺市 撮影者: 福丸政一

マガン <i>Anser albifrons</i> (カモ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧* 冬鳥として不定期に渡来するが、その数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約72cm。全身暗褐色で、背に淡い横斑があり、腹には不規則な黒い横縞がある。嘴は桃色で、基部の周囲が白い。足は橙色。		
分 布	全北区。ユーラシア大陸北部で繁殖し、温帯域で越冬する。日本では、宮城県、石川県、山陰地方などに多く渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として大きな溜池や河口などにまれに渡来する。落ち穂や草の実など植物質の餌を採餌する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川・溜池・農耕地の改変、湿地の減少により生息地の環境が悪化している。		
特 記 事 項	岡山県:情報不足(DD)		
文 献	2, 4, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		執筆: 川南 勉, 大川庫弘




被写体: 三木町 撮影者: 谷上時彦


ツクシガモ <i>Tadorna tadorna</i> (カモ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧* 冬鳥として不定期に渡来するが、数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約63cm。雌雄ほぼ同色。野外では白っぽくみえる。頭、頸の上部、肩羽、胸から腹をとる縦線が緑がかった黒色。背から胸にかけて茶色の幅広い帯がある。		
分 布	旧北区。ユーラシア大陸中部で繁殖し、主に九州北部の有明海沿岸や博多湾などに渡来する。最近になり、西日本へ分布を広げる傾向にある。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として水を落とした溜池や河川、干潟などに少数渡来する。泥の中の小動物を捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川・溜池の改変、干潟の減少により生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県:絶滅危惧 I 類B(EN), 愛媛県・岡山県:絶滅危惧 II 類(VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		執筆: 川南 勉, 大川庫弘




被写体: 三木町 撮影者: 川南 勉

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

トモエガモ <i>Anas formosa</i> (カモ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑧* 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		 <p>被写体: 丸亀市 撮影者: 吉村正則</p>
種 の 特 徴	全長約40cm。雄の顔は黄白色と緑黒色が巴模様になっている。胸は紫褐色で、胸側に白線がある。雌には嘴の付け根に淡色斑がある。		
分 布	旧北区。シベリア東部で繁殖し、日本や中国東南部に冬鳥として渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として溜池などに少数渡来する。1970年代には高松市南部の溜池で30羽前後観察されていたが近年では少数見られるのみである。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川・溜池の改変により生息環境が悪化している。ボートなどによるため池への釣り人侵入の影響も考えられる。		
特 記 事 項	徳島県, 高知県, 岡山県:絶滅危惧II類 (VU), 愛媛県:準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

オオハム <i>Gavia arctica</i> (アビ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		 <p>被写体: 観音寺市 撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約72cm。冬羽は上面は黒褐色で下面は白い。水上では脇の後方に白色部が見えることが多い。		
分 布	全北区。日本へは冬鳥として主に海上部に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として主に東讃・西讃の海上部の沖合に渡来するが数は少ない。潜水して小魚などを捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	餌となるイカナゴなどの魚類が減少しているとされ、越冬のための環境が悪化している。プレジャーボート等の増加などの影響も考えられる。		
特 記 事 項	徳島県:準絶滅危惧種 (NT), 愛媛県:情報不足 (DD)		
文 献	5, 6, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

シロエリオオハム <i>Gavia pacifica</i> (アビ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		 <p>被写体: 東かがわ市 撮影者: 川南 勉</p>
種 の 特 徴	全長約65cm。冬羽は上面が黒褐色で下面は白い。喉に首輪状の黒線が見える事が多い。		
分 布	全北区。日本へは冬鳥として主に海上部に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として主に東讃や小豆島の海上部の沖合に渡来するが数は少ない。潜水して小魚などを捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	餌となるイカナゴなどの魚類が減少しているとされ、越冬のための環境が悪化している。プレジャーボート等の増加などの影響も考えられる。		
特 記 事 項	愛媛県:情報不足 (DD)		
文 献	6, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

ウミウ <i>Phalacrocorax capillatus</i> (ウ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約84cm。体の大部分は光沢のある黒色。背と雨覆は緑色がかっている。各羽には黒い羽縁がある。嘴は、先がかぎ形に曲っている。		
分 布	旧北区。日本では留鳥または漂鳥。北海道から九州にかけて局地的に繁殖する。冬は全国の海岸の岩礁部で見られることが多い。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として切り立った岩場や島しょ部の岩礁とその周辺の海上に渡来するが数は少ない。潜水して小魚を捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	餌となる魚類の減少、越冬地である岩礁への釣り人侵入など環境が悪化している。プレジャーボート等の増加などの影響も考えられる。		
特 記 事 項	0		
文 献	8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	



被写体: 東かがわ市 撮影者: 川南 勉

ヨシゴイ <i>Ixobrychus sinensis</i> (サギ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧* 夏鳥として渡来していたが近年は旅鳥として稀に見られるのみである。		
種 の 特 徴	全長約37cm。日本のサギ科で最小。全体に黄褐色で雄は頭頂が黒く飛行時に風切羽の黒色が目立つ。		
分 布	旧北区, 東洋区。ユーラシア大陸の東南部の温帯から熱帯で繁殖。日本では夏期にごく少数が渡来し繁殖する。近年全国的に減少している。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として溜池などのヒメガマ, ヨシ, マコモ等生えた湿地に渡来する。過去に繁殖した例はあるが近年渡りの途中とみられる個体がまれに観察されるのみである。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修などの影響でヨシ原が減少するなど生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	愛媛県・高知県:絶滅危惧 I 類 (CR+EN), 徳島県:絶滅危惧 I 類B(EN), 岡山県:絶滅危惧 II 類 (VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	




被写体: 三木町 撮影者: 谷上時彦


ミゾゴイ <i>Gorsachius goesagi</i> (サギ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧* 夏鳥として渡来するが個体数が少ない。		
種 の 特 徴	全長約49cm。上面は暗い栗褐色, 下面はパフ色と栗色の縦じまで, 中央に黒い縦斑がある。繁殖期にはゆづりしたテンポでボーボーと鳴く。		
分 布	旧北区。夏鳥として, 本州, 四国, 九州などに渡来するが, 個体数は少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として落葉広葉樹がよく茂った低山の暗い谷間に渡来し繁殖するが数は少ない。営巣地周辺には, 餌になるミミズ類, 水生昆虫, サワガニなどの小動物が多く生息する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	近年, 低山帯において林道建設などの開発が行なわれ, 生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県:絶滅危惧 I 類B(EN), 岡山県:絶滅危惧 I 類 (CR+EN), 愛媛県・高知県:絶滅危惧 II 類 (VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	



被写体: まんのう町 撮影者: 福丸政一

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

ササゴイ <i>Butorides striata</i> (サギ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 夏鳥として渡来するが個体数が少ない。		 <p>被写体: 観音寺市   撮影者: 福丸政一</p>
種 の 特 徴	全長約52cm。成鳥は頭上は黒色、雨覆は笹の葉が重なり合ったように羽緑が白くなっている。飛びながらキューと鋭い声で鳴く。		
分 布	南極区以外。夏鳥として北海道南部から九州に渡来し繁殖する。本州中部以南では少数が越冬する。近県では愛媛と岡山で集団繁殖することが知られている。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として海岸、河川など水辺に渡来するが個体数は少なく、県内での繁殖は確認されていない。待ち伏せたり、水の中を静かに歩いて小魚などを捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修などの影響で餌となる魚類が減少するなど、生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県:絶滅危惧II類 (VU)、徳島県・愛媛県:準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	


アマサギ <i>Bubulcus ibis</i> (サギ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 夏鳥として渡来するが個体数が少ない。		 <p>被写体: 三木町   撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約50cm。夏羽では、頭部と首、背に橙黄色の飾り羽がみられる。ほかは白色。コサギよりやや小さく、嘴は短くて黄色。		
分 布	南極区以外。主に夏鳥として水田、湿地、草原に渡来する。西日本では越冬することがある。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として平地の水田、休耕田、溜池などの湿地に渡来しコサギなどのコロニーで繁殖していたが近年、減少している。昆虫やカエルなど湿地に生息する小動物を捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	農耕地の改変などにより生息環境が悪化している。また、営巣環境も悪化している。		
特 記 事 項	0		
文 献	8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

クロサギ <i>Egretta sacra</i> (サギ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 留鳥として島しょ部等で確認されるが、個体数が極めて少ない。		 <p>被写体: 東かがわ市   撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約62cm。黒色型と白色型がある。瀬戸内海周辺では黒色型である。足は緑褐色。		
分 布	旧北区、東洋区、オーストラリア区。日本では主に本州中部以南の海岸に分布する。		
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥として繁殖期は主に岩礁のある無人島で見ることが多いが個体数は少ない。繁殖期以外は河口、海岸沿いで見かけることがある。一部繁殖しているようだが確認されていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息地への釣り人侵入など生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	岡山県:情報不足(DD)		
文 献	4, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

\*選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅




ヘラサギ <i>Platalea leucorodia</i> (サギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	情報不足 (DD)
選 定 理 由	⑧* 主に冬鳥として渡来するが個体数が極めて少ない。		 <p>被写体: 丸亀市 撮影者: 水野牧子</p>
種 の 特 徴	全長約86cm。全身が白く、嘴と足は黒い。嘴は長く、先端がへら形になっている。幼鳥は翼の先が黒く、嘴は桃色を帯びる。		
分 布	旧北区, 東洋区。主に冬鳥として全国に渡来するが数は少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として水の引いた溜池や河口などに渡来するが個体数は少ない。嘴を半開きにして水中で左右に振りながら、小魚のほかエビなどの小動物を捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池(太陽光発電設置)や河口干潟の改変によって生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	岡山県:絶滅危惧II類(VU), 愛媛県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	2, 4, 6, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	


クイナ <i>Rallus aquaticus</i> (クイナ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧* 冬鳥として渡来するが個体数が少ない。		 <p>被写体: 東かがわ市 撮影者: 川南 勉</p>
種 の 特 徴	全長約29cm。体の上面は茶褐色で黒い縦斑がある。脇から下尾筒まで黒と白の縞模様。嘴は比較的長く、足は黄褐色。		
分 布	旧北区。主に夏鳥として北日本に渡来する。本州中部以南では冬鳥。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として河川などのヨシ原や枯れ草の残った湿地に渡来する。植物の種子や小魚、アメリカザリガニ、エビなどの小動物を捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池や河川の改変, 圃場整備などによって生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県:絶滅危惧I類(CR+EN), 徳島県・岡山県:絶滅危惧II類(VU), 愛媛県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

ヒクイナ <i>Porzana fusca</i> (クイナ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑧* 留鳥として生息するが個体数は少ない。		 <p>被写体: 高松市 撮影者: 川南 勉</p>
種 の 特 徴	全長約23cm。頭部と上腹は赤茶色。後頭・背・翼は暗緑褐色。脇・下腹・下尾筒は白と黒の横斑。嘴は青黒色で、足は赤い。		
分 布	旧北区, 東洋区。夏鳥として全国の水田や湿地に渡来するが、西日本では留鳥化している。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として知られていたが、最近は留鳥として河川や水田などの湿地で見られる。水草やアメリカザリガニ、小魚、昆虫類などを捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池や河川の改修, 圃場整備などによって生息状況が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県・高知岡山県:絶滅危惧II類(VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	


※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅


<b>ジュウイチ</b> <i>Hierococcyx hyperythrus</i> (カッコウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 夏鳥として渡来するが個体数は極めて少ない。		
種 の 特 徴	全長約32cm。頭部から背は灰黒色で、後頭に白斑がある。腹部は淡赤褐色。尾は灰褐色で黒の横帯がある。ジュウイチと高い声で繰り返し鳴く。		
分 布	旧北区、東洋区。日本には標高の高い落葉広葉樹林帯などに夏鳥として渡来する。数は多くない。		
県 内 で の 生 息 状 況	春の渡りの途中に、主に落葉広葉樹林帯に渡来する。大川山などで繁殖の可能性がある。オオルリ、クロツグミなどに托卵することが知られている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	讃岐山脈の森林開発などにより生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県・高知県・岡山県:準絶滅危惧種 (NT)		被写体: 高松市   撮影者: 長尾星孝
文 献	4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

<b>カッコウ</b> <i>Cuculus canorus</i> (カッコウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 夏鳥として渡来するが、個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約35cm。「カッコウ」という鳴き声がよく知られている。ホトギス科の鳥によく似ているが、成鳥は目が黄色く、白い下面に黒色横帯が帯状に並ぶ。		
分 布	旧北区、東洋区、エチオピア区。日本へは夏鳥として九州以北の原野や林縁、明るい林などに渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として渡来する。讃岐山脈の尾根沿いなどで囀っているのを見かける。ホオジロ、モズなどに托卵することが知られている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	讃岐山脈の森林開発などにより生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県:準絶滅危惧種 (NT)		被写体: まんのう町   撮影者: 吉村正則
文 献	4, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

<b>ヨタカ</b> <i>Caprimulgus indicus</i> (ヨタカ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧* 夏鳥として渡来するが、個体数が少なく、低山帯での確認が減っている。		
種 の 特 徴	全長約29cm。全身が黒褐色にみえるが、灰褐色、白色、黒色の複雑な虫食い模様。嘴の外見は小さいが、口裂が大きい。キョキョキョ...と単調で連続した声で鳴く。		
分 布	旧北区。日本へは夏鳥として渡来し九州以北で繁殖する。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として主に讃岐山脈に渡来する。森林に接した草地・伐開地などある程度開けた環境で繁殖する。地面に直接卵を産む。夜間にガ類などの昆虫を飛びながら捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林の開発などで生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県:絶滅危惧 I 類B, 岡山県:絶滅危惧 I 類, 愛媛県:絶滅危惧 II 類, 高知県:準絶滅危惧種		被写体: まんのう町   撮影者: 福丸政一
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	


※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

アマツバメ <i>Apus pacificus</i> (アマツバメ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑦⑧* 夏鳥として渡来し、島しょ部の岩の裂け目で繁殖しているが限定的。			被写体: 東かがわ市   撮影者: 川南 勉
種 の 特 徴	全長約19cm, 翼開長43cm。飛行時、鎌形の翼が目立つ。尾は凹尾(燕尾)。上面は黒褐色、喉と腰は白、胸以下の下面は黒褐色で白い横斑。リジュリリと鳴く。			
分 布	旧北区, 東洋区。日本では夏鳥, 北海道から九州の高山や島嶼部の崖壁で営巣。			
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として渡来する。島しょ部の岩の裂け目で繁殖し、付近の上空を群飛する。飛びながらカ、ハエ、ハネアリ等の飛翔性昆虫を捕食する。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	釣人の侵入などにより、生息環境が悪化している。			
特 記 事 項	0			
文 献	8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17			執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 榮川政彦

ヒメアマツバメ <i>Apus nipalensis</i> (アマツバメ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑦⑧* 留鳥として高松市内などでも確認されていたが、近年は確認されていない。			被写体: 東かがわ市   撮影者: 川南 勉
種 の 特 徴	全長約13cm, 翼開長約32cm 翼は鎌形でアマツバメより小さい。尾はごく浅い凹型。全体に光沢のある黒色で喉と腰が白い。			
分 布	エチオピア区, 旧北区, 東洋区の熱帯・亜熱帯。日本では本州中部以南で留鳥。			
県 内 で の 生 息 状 況	市街地のビルなどでコシアカツバメの古巣を利用して繁殖していたが最近では記録がない。飛びながらカ、ハエ、ハネアリ等の飛翔性昆虫を捕食する。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	繁殖環境が悪化している。			
特 記 事 項	0			
文 献	8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17			執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 榮川政彦

タゲリ <i>Vanellus vanellus</i> (チドリ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリー	—	
選 定 理 由	⑦⑧* 冬鳥として渡来するが確認できる場所は限定的で、個体数も少ない。			被写体: 東かがわ市   撮影者: 水野牧子
種 の 特 徴	全長約31.5cm。黒い冠羽が目立つ大型のチドリ。上面は暗緑色の光沢があり、顔から下面は白く胸に太い黒帯がある。ミュウーミュ、ミャーと子猫のように鳴く。			
分 布	旧北区。日本へは主に冬鳥として渡来する。			
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として農耕地や川原、水を抜いた溜池等に渡来する。昆虫類やミズ等の動物質や植物の種子を採餌する。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池や農耕地の改変により、越冬環境が悪化している。			
特 記 事 項	愛媛県・高知県: 準絶滅危惧種 (NT)			
文 献	6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17			執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 榮川政彦

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ケリ <i>Vanellus cinereus</i> (チドリ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリ	情報不足 (DD)	
選 定 理 由	⑦⑧※ 近年県東部で繁殖が確認されているが、繁殖地は限定的で個体数も少ない。			
種 の 特 徴	全長約35.5cm。長い黄色い脚の大型のチドリ。頭と胸が青灰色、背は褐色。腹は白く胸との境に黒い帯がある。嘴は黄色、先端が黒。ケリリッケリリッ、キーキーと鳴く。			
分 布	旧北区。日本では本州以南で繁殖。四国でも繁殖する場所が少しずつ拡大してきている。			被写体: 東かがわ市 撮影者: 水野牧子
県 内 で の 生 息 状 況	数少ない冬鳥として河川・農耕地などに渡来する。昆虫や両生類などの動物質、イネ科やタデ科等の種子を採餌する。近年になり県東部の水田などでの繁殖が確認されている。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	田の畔などで繁殖するため、草刈りなど農作業による影響が大きい。			
特 記 事 項	高知県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)			
文 献	2, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17			執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 柴川政彦


ムナグロ <i>Pluvialis fulva</i> (チドリ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリ	—	
選 定 理 由	⑦⑧※ 主に旅鳥として渡来するが個体数は少ない。			
種 の 特 徴	全長約24cm。夏羽は顔・前頸・胸・腹は黒く、頭から上面は黄褐色と黒の斑で、額・頸側・胸側・脇は白い。飛行時は羽に不明瞭な白帯が出る。			
分 布	全北区。日本では旅鳥。			被写体: さぬき市 撮影者: 水野全裕
県 内 で の 生 息 状 況	主に旅鳥として農耕地や干潟、水の引いた溜池に渡来する。昆虫や甲殻類、ミズ、ゴカイなどの動物質のほか草の種子なども採餌する。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池や農耕地などの生息環境が悪化している。			
特 記 事 項	徳島県:準絶滅危惧種(NT)			
文 献	5, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17			執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 柴川政彦

ダイゼン <i>Pluvialis squatarola</i> (チドリ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)	
		環境省カテゴリ	—	
選 定 理 由	⑦⑧※ 主に旅鳥として渡来するが個体数は少ない。			
種 の 特 徴	全長約29.5cm。夏羽は顔から腹は黒、上面から後頸にかけて白の2色の印象が強い。飛行時に腰が白く黒い脇腹が目立つ。			
分 布	全北区。日本へは旅鳥又は冬鳥として渡来する。			被写体: 東かがわ市 撮影者: 谷上時彦
県 内 で の 生 息 状 況	主に旅鳥として海岸や河口・干潟に渡来するが個体数は少ない。水を抜いた溜池や水田などでも見かけることも有る。一部越冬の記録も有る。ゴカイや貝、昆虫や草の実を採餌する。			
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河口干潟などの生息環境が悪化している。			
特 記 事 項	高知県:絶滅危惧Ⅱ類(VU)			
文 献	7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17			執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 十一正雄

※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

イカルチドリ <i>Charadrius placidus</i> (チドリ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 個体数が減少している。		 <p>被写体: 高松市   撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約20.5cm。顔の様子は、コチドリより淡色で、眼の縁の黄色が薄い。飛翔時、翼に淡色の帯が出る。繁殖期には、ピオ、ピオと高い声で鳴きながら飛び回る。		
分 布	旧北区。日本では留鳥又は漂鳥。北海道から九州の主に河川敷で繁殖する。		
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥として主要河川の砂礫の多い川原で繁殖している。繁殖期以外は農耕地、水を抜いた溜池、河口などで見られるが数は少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川改修により砂礫の多い川原が減少しており、繁殖環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・高知県・岡山県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 5, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

コチドリ <i>Charadrius dubius</i> (チドリ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 主に夏鳥として渡来するが個体数が減少している。		 <p>被写体: 三木町   撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約16cm。日本のチドリの仲間では一番小さい。頭の黒と褐色の模様の上に白い部分がある。目の周りのはっきりした黄色いアイリングが特徴。		
分 布	旧北区。日本では主に夏鳥として川原・砂浜・干拓地などに渡来する。越冬するものもいる。		
県 内 で の 生 息 状 況	主に夏鳥として渡来する。海岸や干拓地、河川の砂礫地などで見られる。数は少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	砂礫の多い川原や埋立地が減少しており、繁殖環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 十一正雄	

シロチドリ <i>Charadrius alexandrinus</i> (チドリ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧* 個体数が減少している。		 <p>被写体: 東かがわ市   撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約17.5cm。全体に白っぽい。背面は灰褐色で、腹面が白い。雄の夏羽は、頭頂から後頭にかけて茶褐色になり、過眼線は黒くなる。		
分 布	全北区。日本では北海道で夏鳥、本州以南では留鳥。		
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥として埋立地などの砂礫地で繁殖する。繁殖期以外は干潟、河口、水を抜いた溜池などで小さな群れで見られる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	砂礫の多い川原や埋立地が減少しており、繁殖環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県:絶滅危惧II類(VU), 高知県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	2, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	


※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

メダイチドリ <i>Charadrius mongolus</i> (チドリ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 旅鳥として渡来するが個体数は少ない。		 <p>被写体: 観音寺市 撮影者: 水野牧子</p>
種 の 特 徴	全長約19.5cm。オスの夏羽では前頭から後頭、胸にかけて橙色になるのではかの種と区別しやすい。冬は橙色がなくなり下面は白っぽく見える。飛翔時、翼に白帯が出るのが特徴。		
分 布	旧北区。日本には旅鳥として海岸や河口、干潟の砂地・泥地に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として渡来する。干潟、三豊干拓地、水を抜いた溜池で見られるが数は少ない。ゴカイやカニなどを好む。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	主な生息地である干潟環境が悪化している。		
特 記 事 項	0		
文 献	8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 十一正雄	

オオメダイチドリ <i>Charadrius leschenaultii</i> (チドリ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 旅鳥として渡来するが個体数は極めて少ない。		 <p>被写体: 観音寺市 撮影者: 水野牧子</p>
種 の 特 徴	全長約21.5cm。メダイチドリより少し大きく、嘴も足も長い。足は黄褐色。夏羽は、頭の後ろ側から胸にかけての橙色が目立つ。冬羽では橙色が消える。		
分 布	旧北区。日本へは数少ない旅鳥として渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として渡来する。花稲海岸などの干潟、三豊干拓地などで見かけるが数はメダイチドリよりさらに少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	主な生息地である干潟環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県:準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	5, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

セイタカシギ <i>Himantopus himantopus</i> (セイタカシギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧※ 旅鳥として渡来するが個体数は少ない。		 <p>被写体: 観音寺市 撮影者: 水野全裕</p>
種 の 特 徴	全長約37cm。細くて長い嘴とピンク色の長い足が目立つ。雄の頭頂から後頭が黒い。背から上面も黒く、その他の部分は白い。雌の頭部は白色もしくは、わずかに灰黒色部があるのみ。		
分 布	南極区以外。日本では局地的に埋立地で繁殖し、越冬するものもいる。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として水を抜いた溜池や水田、干潟などに渡来する。小魚や水生昆虫を捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息地である内陸性の開けた水溜り環境が減少している。		
特 記 事 項	徳島県:絶滅危惧II類 (VU), 高知県・岡山県:準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

ヤマシギ <i>Scolopax rusticola</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧※ 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		 <p>被写体: まんのう町 撮影者: 吉村正則</p>
種 の 特 徴	全長約34cm。大きくてよく太ったシギ。真つすぐで長い嘴を持つ。枯葉のような褐色の体で警戒心が強い。		
分 布	旧北区。日本では北海道で夏鳥, 本州中部以北で留鳥, 以南では冬鳥。数は少ない		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として渡来する。山地, 緑地, 河川林などの薄暗いところを好む。夜行性でミミズや昆虫を捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川林, 里山の開発により生息地が減少している。		
特 記 事 項	高知県: 絶滅危惧II類 (VU), 徳島県: 準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	5, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		


アオシギ <i>Gallinago solitaria</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		 <p>被写体: まんのう町 撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約30cm。嘴は真つすぐで長い。上面は黒褐色で暗く背の白い線が目立つ。全体に白い複雑な斑紋がある。		
分 布	旧北区。日本では北海道から九州で冬鳥として渡来するが数は少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として渡来する。山地の溪流畔や水路で稀に見られる。ミミズや水生昆虫を捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川の改修工事により生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県: 情報不足 (DD)		
文 献	7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		

オオジシギ <i>Gallinago hardwicki</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑥※ 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		 <p>被写体: 観音寺市 撮影者: 福丸政一</p>
種 の 特 徴	全長約31cm。長く真つすぐな嘴をもつ。足は短く、ずんぐりした体形である。上面は褐色で黒褐色と赤褐色の斑点がある。腹は白い。		
分 布	旧北区。日本へは夏鳥として主に北海道から本州中部以北まで渡来する。愛媛県の大野ヶ原で繁殖例がある。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春と秋の渡りの時期に三豊干拓地などの農耕地へ渡来する。秋は8月上旬から見られる。ミミズ, 昆虫, 植物の種子などを採餌する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	休耕田などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	愛媛県・高知県・岡山県: 絶滅危惧 I 類 (CR+EN), 徳島県: 準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>オオソリハシギ</b> <i>Limosa lapponica</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		 <p>被写体: 観音寺市   撮影者: 水野牧子</p>
種 の 特 徴	全長約41cm。長い嘴が少し上にそり、足は比較的短い。ケッケツと鳴く。		
分 布	全北区。日本へは旅鳥として全国の干潟や河口などに渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春と秋に花稲海岸や河口干潟、三豊干拓地に少数が渡来する。ゴカイ類や貝類などを捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海辺や河口の干潟などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	愛媛県: 絶滅危惧II類 (VU)		
文 献	2, 6, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 岡 憲司	

<b>ダイシャクシギ</b> <i>Numenius arquata</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		 <p>被写体: 東かがわ市   撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約60cm。嘴は非常に長く、下に曲がっている。体全体が淡褐色であるが、腰から下尾筒まで・上尾筒が白い。		
分 布	旧北区。日本には旅鳥又は冬鳥として全国に渡来する。干潟や海岸近くの水田、干拓地で見られる。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春と秋に花稲海岸や河口干潟、三豊干拓地に単独又は少数で渡来する。ゴカイ類や貝類などを捕食する		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海辺や河口の干潟などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県: 絶滅危惧 I 類 (CR+EN), 徳島県: 絶滅危惧 II 類 (VU)		
文 献	5, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	


<b>ハウロクシギ</b> <i>Numenius madagascariensis</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		 <p>被写体: 観音寺市   撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約61.5cm。体形はダイシャクシギによく似るが、全体に褐色味が強く腰から下尾筒まで・上尾筒の白色がない。嘴は非常に長く下に曲がっている。		
分 布	旧北区。日本へは旅鳥として干潟や河口、農耕地へ渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春と秋に花稲海岸や河口干潟、三豊干拓地に単独又は少数で渡来する。ゴカイ類や貝類などを捕食する		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海辺や河口の干潟などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県: 絶滅危惧 I 類 (CR+EN), 徳島県・岡山県: 絶滅危惧 II 類 (VU), 愛媛県: 準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅




ツルシギ	香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
	環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
<i>Tringa erythropus</i> (シギ科)			
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		被写体: 観音寺市   撮影者: 谷上時彦
種 の 特 徴	全長約32.5cm。成鳥の夏羽は全体に煤けた黒色で、白いアイリングを持つ。足は赤い。冬羽上面は淡い灰色で白い羽縁がある。		
分 布	旧北区。日本へは旅鳥として、全国の水田、湿地、ハス田、干潟などに渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春秋の渡りの時期に水の引いた溜池、水の入った干拓地や休耕田に少数が渡来する。春期の渡来は他のシギより早く3月頃から見られる。甲殻類、水生生物などを捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池や休耕田の生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県:絶滅危惧II類(VU), 高知県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	2, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		執筆者: 川南 勉, 大川庫弘, 岡 憲司


アカアシギ	香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
	環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
<i>Tringa totanus</i> (シギ科)			
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		被写体: 観音寺市   撮影者: 谷上時彦
種 の 特 徴	全長約27.5cm。足が赤いのが特徴である。嘴は先端が黒く基部が赤く、ツルシギより短めである。飛翔時、次列風切・上尾筒が白く見える。		
分 布	旧北区。日本では北海道東部で繁殖する他は旅鳥として渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春秋の渡りの時期に三豊干拓地、水を抜いた溜池、河口干潟に少数が渡来する。甲殻類、水生生物などを捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河口干潟や休耕田などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・岡山県:絶滅危惧II類(VU), 高知県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		執筆者: 川南 勉, 大川庫弘

コアオアシギ	香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)	
	環境省カテゴリー	—	
<i>Tringa stagnatilis</i> (シギ科)			
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		被写体: 高松市   撮影者: 谷上時彦
種 の 特 徴	全長約24.5cm。嘴は細くて直線的で黒く、足はオリーブ緑色で長い。		
分 布	旧北区。日本へは旅鳥として渡来する。淡水域で見かけることが多い。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春と秋の渡りの時期に渡来する。三豊干拓地、水を抜いた溜池、休耕田の水溜まりで見かけるが数は少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池や休耕田などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	愛媛県:絶滅危惧II類(VU), 徳島県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	5, 6, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		執筆者: 川南 勉, 大川庫弘, 岡 憲司


※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

キョウジョシギ <i>Arenaria interpres</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数が少ない。		 <p>被写体: 観音寺市 撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約22cm。背の赤褐色、黒、白のまだら模様と顔の「くまどり」模様が目立つ。英名(ターンストーン)の由来どおり、小石をひっくり返してカニや小動物などの餌をとる。		
分 布	全北区。日本へは主に旅鳥として砂礫の多い干潟に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春と秋に渡来する。花稲海岸など小石の多い海岸や河口で小群が見られる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海辺や河口の干潟などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	-		
文 献	8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆者: 川南 勉, 大川庫弘	

オバシギ <i>Calidris tenuirostris</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		 <p>被写体: 観音寺市 撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約28.5cm。中型のシギ。足はオリーブ黒色で短い。夏羽では肩付近に赤褐色の羽が混じり、胸には黒斑の帯がある。冬羽では、全体的に灰色っぽくなる。		
分 布	旧北区。日本へは旅鳥として干潟や入り江に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春と秋に海岸や河口の干潟に少数が渡来する。花稲海岸や姫浜で見かけることが多い。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海辺や河口の干潟などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	-		
文 献	8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆者: 川南 勉, 大川庫弘	

ミュビシギ <i>Calidris alba</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		 <p>被写体: 観音寺市 撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約20cm。小形シギ類の中で最も白く見え、翼角の部分が黒い。嘴は短く、足は黒く足指は3本。		
分 布	全北区。日本へは旅鳥または冬鳥として主に砂浜に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春と秋に海岸や河口の干潟に少数が渡来する。花稲海岸や姫浜など、比較的砂地が多い干潟で見かけることが多い。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	海辺や河口の干潟などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	愛媛県: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
文 献	6, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆者: 川南 勉, 大川庫弘	

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

オジロトウネン <i>Calidris temminckii</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 主に旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約14.5cm。夏羽では上面は黒い軸斑と黄褐色の羽縁が明瞭。足は黄緑色。冬羽では上面と胸は暗灰色。		
分 布	旧北区。日本へは冬鳥または旅鳥として北海道、本州、四国、九州、南西諸島に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として、主に秋季に干拓地や休耕田などの湿地、水を抜いた溜池に少数が渡来する。一部越冬する個体もいる。ミミズ、昆虫の他、草の実などを採餌する。三豊干拓地、丸亀市南部、高松市の溜池などで見られる。		
絶滅危険性の要因	溜池や休耕田の生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県:絶滅危惧II類(VU)		被写体: 丸亀市   撮影者: 吉村正則
文 献	5, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		執筆: 川南 勉, 大川庫弘

ヒバリシギ <i>Calidris subminuta</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約14.5cm。夏羽は頭上から上面は茶褐色、背にV字型の白線がある。腹は白い。茶褐色の頭中央線とその両側の白線は顕著。足は黄緑色。		
分 布	旧北区。日本には旅鳥として渡来。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として、主に秋季に干拓地や休耕田などの湿地、水を抜いた溜池に少数が渡来する。ミミズ、昆虫の他、草の実などを採餌する。三豊干拓地、丸亀市南部、高松市の溜池などで見られる。		
絶滅危険性の要因	溜池や休耕田の生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県:絶滅危惧II類(VU)		被写体: 観音寺市   撮影者: 谷上時彦
文 献	5, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 片山繁子

ウズラシギ <i>Calidris acuminata</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約21.5cm。夏羽の上面は黒褐色、羽縁は褐色。頭尖は赤褐色。顔、胸、胸脇には黒斑が密。腹は白い。足は黄緑色。		
分 布	旧北区。日本には旅鳥として渡来。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として、主に秋季に干拓地や休耕田などの湿地、水を抜いた溜池に少数が渡来する。ミミズ、昆虫の他、草の実などを採餌する。三豊干拓地、丸亀市南部、高松市の溜池などで見られる。		
絶滅危険性の要因	溜池や休耕田の生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県:準絶滅危惧種(NT)		被写体: 三木町   撮影者: 谷上時彦
文 献	5, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 片山繁子

※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>キリアイ</b> <i>Limicola falcinellus</i> (シギ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は極めて少ない。		 <p>被写体: 高松市 撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約17cm。夏羽の上面は赤褐色で黒の軸斑がある。頭が黒褐色でその両側の白い頭側線と眉斑が目立つ。嘴は比較的長く先がわずかに下に曲がっている。飛翔時に細い翼帯が出る。		
分 布	旧北区。日本には旅鳥として全国的に渡来するが数は少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として主に秋期に干拓地や、湿地に渡来するが数は極めて少ない。甲殻類、水生生物等を捕食する。三豊干拓地での観察例が比較的多い。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池や休耕田などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・高知県: 絶滅危惧II類 (VU)		
文 献	5, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 片山繁子	

<b>タマシギ</b> <i>Rostratula benghalensis</i> (タマシギ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧* 留鳥として繁殖が確認されているが個体数は少ない。		 <p>被写体: 三木町 撮影者: 谷上時彦</p>
種 の 特 徴	全長約25cm。雄より雌が派手。雌雄とも目の周囲の白、胸側の白線とそれに続く背の外側の黄色い線が目立つ。雌は喉から胸が赤褐色で肩羽外側に白い線が有る。		
分 布	旧北区, 東洋区, エチオピア区。日本では、主に関東以西で留鳥, 個体数は少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥。水田, 休耕田, 水を抜いた溜池, 草の生えた流れのない河川などで生息するが数は少ない。水生生物などを捕食する。一妻多夫。雄が抱卵, 育雛をする。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池や河川の改修, 圃場整備などによって生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県・高知県: 絶滅危惧II類 (VU), 岡山県: 準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

<b>ツバメチドリ</b> <i>Glareola maldivarum</i> (ツバメチドリ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥として渡来するが、個体数は少ない。		 <p>被写体: 観音寺市 撮影者: 福丸政一</p>
種 の 特 徴	全長約24.5cm。背と胸はオリーブ褐色で腹が白。翼の風切と尾は黒く、喉に黒い縁取りがある。長く先の尖った翼と二股に分かれた尾をもち、ツバメを大きくしたような形である。		
分 布	旧北区, 東洋区。日本へは旅鳥として渡来するが、中には繁殖例もある。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として主に三豊干拓地などの農耕地に渡来する。トンボ、アブなど飛んでいる昆虫を捕食する。地上を歩いて昆虫を捕ることもある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	農耕地の改変により生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県: 絶滅危惧II類 (VU), 高知県・岡山県: 準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>ズグロカモメ</b>		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
<i>Larus saundersi</i> (カモメ科)			
選 定 理 由	⑦⑧* 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約31.5cm。上面が淡青灰色、下面は白色。冬羽では、頭部が白く、目の後方に黒色斑がある。嘴は太くて短く黒色。夏羽では頭部が黒く、目の周りが白くなる。		
分 布	旧北区。日本では主に西日本に冬鳥として渡来するが数は少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として河口、干潟に少数渡来する。ユリカモメやウミネコの群れに混じるが、少し離れた所で飛翔することが多い。干潟で、カニなどの小動物を捕食する。新川の河口などで少数見られる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河口干潟などの生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県:絶滅危惧 I 類B(EN), 愛媛県・岡山県:絶滅危惧 II 類 (VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	



被写体: 観音寺市 | 撮影者: 福丸政一

<b>コアジサシ</b>		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
<i>Sterna albifrons</i> (カモメ科)			
選 定 理 由	⑦⑧* 夏鳥として渡来するが個体数が減少している。		
種 の 特 徴	全長約25cm。夏羽は額が白く、頭頂から後頭部が黒色で、体と翼の上面は淡灰色、下面および尾羽は白色。嘴は黄色で先端が黒色。脚は橙黄色である。キリッ、キリッ、と鳴く。		
分 布	北極圏、南極圏以外の全域。日本では夏鳥として本州以南で繁殖するが繁殖地は限定的である。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として限られた場所に渡来する。海岸や河川の水辺に生息し、水中にダイビングして小魚を捕食する。広い砂浜や河川敷の砂礫地に集団繁殖する。近年では観音寺市瀬戸町、高松市朝日町の埋立地で繁殖が確認されている。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	砂浜や河川敷などの自然生息環境は残っていない。埋立地のような環境は、長期間維持されることは少なく繁殖地としては不安定である。		
特 記 事 項	高知県・岡山県:絶滅危惧 I 類 (CR+EN), 徳島県 :絶滅危惧 I 類B(EN), 愛媛県:絶滅危惧 II 類 (VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	




被写体: 観音寺市 | 撮影者: 谷上時彦

<b>ミサゴ</b>		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
<i>Pandion haliaetus</i> (ミサゴ科)			
選 定 理 由	⑧* 留鳥として繁殖するが個体数は多くない。		
種 の 特 徴	全長雄約58cm, 雌約60cm, 翼開長147~169cm。頭頂白く、短い冠羽があり過眼線は黒い。上面が黒褐色、下面は白く黒褐色の胸帯がある。		
分 布	南極区以外の全区。日本では北海道から沖縄まで分布し繁殖する。数は少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥として広い範囲で見られる。樹上に巣を造り何年も使う。営巣に適した松の減少で鉄塔等の人工物を利用する例もある。島しょ部では人が近づけない岩場の頂上部などに営巣が見られる。ボラ、コイ、フナなどの魚類を、海岸、河口、溜池などで捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	営巣に適した高木のマツが減少している。主に魚類を餌にするため、水辺環境が生息に影響する。		
特 記 事 項	高知県:絶滅危惧 I 類 (CR+EN), 徳島県・愛媛県・岡山県:準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	




被写体: 東かがわ市 | 撮影者: 水野牧子


\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>ハチクマ</b> <i>Pernis ptilorhynchus</i> (タカ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑦⑧※ 夏鳥として渡来するが個体数が少ない。		 <p>被写体: まんのう町   撮影者: 福丸政一</p>
種 の 特 徴	全長雄約57cm, 雌約61cm。個体の色彩には変異が多い。羽の幅は広く、飛翔中は他のタカ類に比べて首が長く見える。ピーーなど鳴く。		
分 布	旧北区。日本へは夏鳥として北海道から九州までの山地に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として5月ごろに渡来するが数は少ない。春と秋には山地沿いで渡りの個体を見ることができる。まとまった森林地帯で生息する。昆虫類、両生類、爬虫類なども捕食するが、とくにハチ類の幼虫を好む。少数は繁殖していると思われるが、近年は確認されていない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発や管理放棄により、生息に適した自然林や営巣に適した落葉広葉樹林が減少し生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県:絶滅危惧I類(CR+EN), 徳島県:絶滅危惧I類(B+EN), 愛媛県・岡山県:絶滅危惧II類(VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	


<b>ツミ</b> <i>Accipiter gularis</i> (タカ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 留鳥又は旅鳥として渡来するが個体数は少ない。		 <p>被写体: 高松市   撮影者: 長尾星孝</p>
種 の 特 徴	全長雄約27cm, 雌約30cm。日本では最小のタカ。雄は、頭から上面が暗青灰色で、下面は白色。胸から脇が橙色。雌は、上面が雄よりも褐色味を帯びる。キッキキキキキなどと鳴く。		
分 布	旧北区, 東洋区。日本では、多くは夏鳥、一部は留鳥として九州以北に分布する。		
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥として平地から山地の林に生息するが個体数は少ない。春と秋には渡りの個体を山地沿いで見ることができる。主に小鳥を捕らえるが、昆虫類や小型の哺乳類も捕食する。過去には大川山で繁殖記録がある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発などにより、生息に適した自然林が減少、生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	岡山県:絶滅危惧II類(VU), 愛媛県:準絶滅危惧種(NT), 高知県:情報不足(DD)		
文 献	4, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

<b>ハイタカ</b> <i>Accipiter nisus</i> (タカ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑧※ 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		 <p>被写体: まんのう町   撮影者: 福丸政一</p>
種 の 特 徴	全長雄約32cm, 雌約39cm。雄は、上面が青灰色、下面が白く、橙褐色の横斑がある。雌は、上面に褐色みがあり、下面の横斑が細い。		
分 布	旧北区。日本では本州中部以北の林で繁殖し、冬は全国的に見られる。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として渡来し、山地、河川林、農耕地などに生息する。春と秋には渡りをする個体を山地沿いで見ることができる。小型鳥類や小動物などを捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発や河川改変などにより、生息に適した自然林が減少し生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県・岡山県:絶滅危惧II類(VU), 徳島県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>オオタカ</b> <i>Accipiter gentilis</i> (タカ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
選 定 理 由	⑧* 留鳥、一部冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		 <p>被写体: 観音寺市   撮影者: 川南 勉</p>
種 の 特 徴	全長雄約50cm, 雌約57cm。幅の広い翼とやや長めの尾を持つ。頬は青黒色で眉斑は明瞭。下面は白地に黒くて、細い横斑が一面にある。		
分 布	全北区。日本では留鳥として九州以北に分布する。中部地方以北が主な繁殖地。		
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥、一部冬鳥。山地から平地にかけての森林に生息し、数が所での繁殖が確認されている。冬は海岸沿いの平地でも少数が見られる。餌は主として中型の鳥類。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発や河川改変などにより、生息に適した自然林が減少し生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、徳島県・愛媛県・岡山県:絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		
	執筆: 川南 勉, 大川庫弘		

<b>サシバ</b> <i>Butastur indicus</i> (タカ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧* 夏鳥として渡来するが個体数が少ない。		 <p>被写体: 高松市   撮影者: 川南 勉</p>
種 の 特 徴	全長雄約47cm, 雌約51cm。頭上は灰褐色。背、肩羽、腰などは赤褐色。尾羽は灰褐色に数本の黒帯がある。胸と胸側は褐色。腹は白地に黒い横斑が密にある。ピッキイと鳴く。		
分 布	旧北区。日本へは夏鳥として九州から本州へ渡来する。南西諸島では越冬する。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として渡来し、山地の林で繁殖するが近年個体数が大きく減少している。アカマツの大木に営巣することが多い。餌は、爬虫類、両生類のほかネズミ類、昆虫などの小動物である。春と秋には渡りをする個体を山地沿いで見ることができる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	農地改修や農業汚染などにより里山の環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・愛媛県・高知県・岡山県:絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		
	執筆: 川南 勉, 大川庫弘		

<b>クマタカ</b> <i>Nisaetus nipalensis</i> (タカ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
選 定 理 由	⑦⑧* 讃岐山脈沿いで観察されるが極めて稀。		 <p>被写体: まんのう町   撮影者: 木谷重信</p>
種 の 特 徴	全長雄約72cm, 雌約80cm, 翼開長140~165cm。飛翔時、幅広く後ろに膨らんだ形の翼が特徴。		
分 布	旧北区, 東洋区。日本では、北海道から九州に至る地域に生息する。四国では、徳島、高知、愛媛の各県で生息が確認されているが、個体数は極めて少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	讃岐山脈沿いで観察されるが極めて稀。近年では冬季大川山で観察されている。餌は、中型の哺乳類、鳥類、爬虫類などで、それらの動物が生息できる広い森林が必要である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息に適した広大な自然林が減少している。		
特 記 事 項	国内希少野生動植物, 愛媛県・高知県・岡山県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、徳島県:絶滅危惧Ⅰ類B(EN)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17		
	執筆: 川南 勉, 大川庫弘		

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

オオコノハズク <i>Otus lempiji</i> (フクロウ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 留鳥として生息するが個体数が少ない。		
種 の 特 徴	全長約23.5～26cm, 翼開長約54～60cm。全体に茶色みを帯びた暗褐色で枯れ葉模様は保護色になる。大きな羽角がある。眼は橙色。		
分 布	旧北区, 東洋区。日本ではほぼ全土で留鳥であるが数は多くない。		
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥として讃岐山脈沿いのよく繁った山林などに生息する。木の洞などを利用して繁殖する。巣箱を利用した例もある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然林の減少により、樹洞ができるほどの大木が減少するなど営巣環境が悪化している。		
特 記 事 項	岡山県:絶滅危惧I類(CR+EN), 徳島県:準絶滅危惧種(NT), 愛媛県・高知県:情報不足(DD)		
文 献	4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	



被写体: さぬき市 撮影者: 長尾星孝

アオバズク <i>Ninox scutulata</i> (フクロウ科)		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 夏鳥として渡来するが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約27～30.5cm, 翼開長66～77.5cm。羽角がない。頭部から背、尾にかけての上面が黒褐色で、下面は白地に黒褐色の太い縦斑がある。眼は黄色。		
分 布	旧北区, 東洋区。日本へは夏鳥としてほぼ全土に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として平地の社叢や山地に渡来し、大木の樹洞などで営巣する。夜行性で、コウモリや甲虫類を捕食する。県内全域に渡来するが数は少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	樹洞ができるほどの大木が減少するなど、営巣環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県・岡山:絶滅危惧II類(VU), 徳島県・愛媛県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	



被写体: 善通寺市 撮影者: 福丸政一

トラフズク <i>Asio otus</i> (フクロウ科)		香川県カテゴリー	絶滅危惧I類 (CR+EN)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 冬鳥として渡来するが個体数は極めて少ない。		
種 の 特 徴	全長約35～40cm, 翼開長約91～102cm。フクロウよりやや小さい。体の上面は灰褐色で、下面には黒褐色の縦斑がある。顔はフクロウに似るが、長い羽角がある。		
分 布	全北区。日本では本州北部から北海道にかけて局地的に繁殖する。本州中部以南で冬鳥。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として干拓地、埋め立て地、河川林などに渡来するが数は極めて少ない。昼間は休息し、夜間農耕地の草地周辺で主にネズミ類、小鳥、コウモリ類などを捕食する。三豊干拓地では複数での渡来記録もある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	昼間の休息場所である河川林や防風林が減少している。農耕地における餌動物の減少により生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	岡山県:絶滅危惧II類(VU), 徳島県・愛媛県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 5, 6, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	




被写体: 観音寺市 撮影者: 川南 勉

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅




<b>コミミズク</b> <i>Asio flammeus</i> (フクロウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 冬鳥として渡来するが個体数は極めて少ない。		
種 の 特 徴	全長約35～41cm, 翼開長約94～104cm。中型のフクロウ。羽角は短くほとんどみえない。羽色に個体差がある。上面は黒褐色に複雑な模様。下面は淡色に褐色の縦斑がある。		
分 布	全北区, エチオピア区, 東洋区, 新熱帯区。日本へは冬鳥としてほぼ全国に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として干拓地や河川林に渡来するが数は極めて少ない。夕方になると干拓地などの広い草地やヨシ原の上を飛び、主にネズミ類を捕食する。日中は草原で休む。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息に適した広大な草地や農地が減少し、生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	高知県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 岡山県: 絶滅危惧Ⅱ類(VU), 徳島県・愛媛県: 準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	
被写体: 観音寺市	撮影者: 福丸政一		

<b>アカショウビン</b> <i>Halcyon coromanda</i> (カワセミ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥、一部夏鳥として渡来するが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約27.5cm。全身は黄褐色を帯びた赤色で、上面には紫色の光沢がある。腰に瑠璃色の羽毛がある。嘴が太く、赤い。足も赤い。繁殖期はキョロロロ…と尻下がりに鳴く。		
分 布	旧北区, 東洋区。日本では夏鳥として北海道から南西諸島までに渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥、一部夏鳥として溪流沿いのよく茂った森林に渡来する。溪流沿いにある枯れ木の樹洞などで営巣するが数は少ない。餌は、カエル類、トカゲ類、サワガニ、カタツムリ類、昆虫類などの小動物である。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溪流沿いの広葉樹林が河川改修、林道建設、人工造林などによって減少し、生息環境が悪化している。樹洞ができるほどの大木が少なくなり、営巣場所が減少している。		
特 記 事 項	岡山県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 高知県: 準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	
被写体: 観音寺市	撮影者: 水野牧子		

<b>ヤマセミ</b> <i>Megaceryle lugubris</i> (カワセミ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 留鳥として少数生息していたが近年の観察記録はない。		
種 の 特 徴	全長約37.5cm。大きな嘴と冠羽が目立つ。体の上面は白と黒のまだらが顕著。下面は白い。キヤラツ、キヤラツと大きな声で鳴く。		
分 布	旧北区, 東洋区。日本では留鳥で九州以北の山地の溪流や湖沼に生息する。数は減っている。		
県 内 で の 生 息 状 況	かつては留鳥で主要河川の上流部や周辺のダム、溜池などで少数生息していたが近年の観察記録はない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息域への釣り人の侵入、河川改修などにより餌となる魚類が減少するなど生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県: 絶滅危惧Ⅰ類B(EN), 岡山県: 絶滅危惧Ⅱ類(VU), 高知県・愛媛県: 準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	
被写体: 高松市	撮影者: 吉村正則		

※選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④固有有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

<b>ブッポウソウ</b> <i>Eurystomus orientalis</i> (ブッポウソウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I B 類 (EN)
選 定 理 由	⑦⑧* 主に旅鳥として渡来するが個体数が極めて少ない。		
種 の 特 徴	全長約29.5cm。頭部は黒、体は青緑色で翼には白斑がある。嘴と足は赤い。ゲゲゲゲツとなく。		
分 布	旧北区、東洋区、オーストラリア区。夏鳥として本州から九州に渡来。岡山県、広島県などでは巣箱による保護活動が盛んである。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として春の渡りの時期に稀に観察されていたが、近年、夏季にも複数個体が観察されるようになった。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然林が減少するなど県内の生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	愛媛県・岡山県:絶滅危惧 I 類(CR+EN)、徳島県:絶滅危惧 I 類(CR)、高知県:絶滅危惧 II 類(VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

<b>アリスイ</b> <i>Jynx torquilla</i> (キツキ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧* 冬鳥として渡来するが個体数が少ない。		
種 の 特 徴	全長約17.5cm。尾は角尾。黒い過眼線、頭上から背中央に走る黒帯が目立つ。体は灰褐色と黒と灰色の複雑な斑紋がある。キヤーキヤーキヤーとモズに似た声で鳴く。		
分 布	旧北区。日本では北海道、東北地方の北部でも繁殖。冬期には本州中部以南に移動する。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として渡来し河川林や公園の樹木、雑木林の林縁部で観察されるが数は少ない。アリなどを主な餌にする。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川の改修による河川林の減少などで生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	-		
文 献	8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 片山繁子	

<b>オオアカゲラ</b> <i>Dendrocopos leucotos</i> (キツキ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 冬季を中心に観察記録が有るが近年の記録はない。		
種 の 特 徴	全長約28cm。雄の頭頂部は赤いが、雌は黒い。体の上面の白点は細かい。下面は喉、胸、腹にかけて淡赤褐色、下腹部と下尾筒が赤い。		
分 布	旧北区。留鳥として北海道から奄美大島までの森林に生息する。四国山地の温帯林に生息するが数は少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	讃岐山脈の主な稜線部で冬季を中心に観察記録が有るが近年は極めて少ない。樹木の幹に潜む昆虫類を捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息に必要な温帯林が減少するなど生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・高知県・岡山県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 5, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

\*選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<h2>チョウゲンボウ</h2> <p><i>Falco tinnunculus</i> (ハヤブサ科)</p>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑧* 冬鳥として平野部を中心に渡来するが個体数が少ない。		
種 の 特 徴	全長雄約33cm, 雌約39cm, 翼開長69~76cm。翼の先端はあまり尖らない。雄は頭から顔が青灰色。背と雨覆が茶褐色で黒い斑点があり、尾の先端には黒帯がある。		
分 布	旧北区, エチオピア区。日本では全国に分布。関西以北で繁殖。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として開けた農耕地, 丘陵地, 河川敷, 市街地に渡来する。小型哺乳類を主食に小鳥や昆虫も捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	農地の宅地化, 河川改修などによりえさ場となる生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	岡山県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 片山繁子	



被写体: さぬき市 撮影者: 水野全裕

<h2>コチョウゲンボウ</h2> <p><i>Falco columbarius</i> (ハヤブサ科)</p>		香川県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由	⑦⑧* 冬鳥として三豊干拓地などに渡来するが個体数が極めて少ない。		
種 の 特 徴	全長約29cm翼, 雌33cm, 翼開長約64~74cm。雄は上面が青味かかった灰色 下面はオレンジ色味が有る。雌は上面が黒褐色でわずかにバフ色の斑が有る。下面は黒褐色の従斑が有る。		
分 布	全北区。日本には冬鳥として九州以北の農耕地, 干拓地, 海岸に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として三豊干拓地などに1~2羽渡来する。全体として数は少なく, 特に成鳥雄の記録は少ない。観察できない年もある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	農地利用の変化により生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	愛媛県・岡山県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 6, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 水野寛美	



被写体: 観音寺市 撮影者: 川南 勉

<h2>ハヤブサ</h2> <p><i>Falco peregrinus</i> (ハヤブサ科)</p>		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑦⑧* 留鳥として生息するが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長雄約41cm, 雌約49cm, 翼開長84~120cm。頭部から背, 尾までの上面と翼の上面は青灰色で, 眼から頬にはひげ状の黒斑がある。ケーケー, キキキ, キッキキなどと鳴く。		
分 布	南極区以外の全区。日本では全国に分布し, 九州以北で繁殖するが個体数は少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥として島しょ部から内陸部の断崖の岩棚, 採石場で繁殖しているが個体数は少ない。ハト, ヒヨドリ等小型から中型の鳥を空中で捕る。市街地でも捕食するのがみられる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息域での開発行為や人の侵入により繁殖環境が悪化している。		
特 記 事 項	国内希少野生動植物, 高知県:絶滅危惧 I 類(CR+EN), 徳島県・愛媛県・岡山県:絶滅危惧 II 類(VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	



被写体: 丸亀市 撮影者: 福丸政一

\*選定理由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

ヤイロチョウ <i>Pitta nympha</i> (ヤイロチョウ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧 I B 類 (EN)
選 定 理 由	⑦⑧* 旅鳥・一部夏鳥として確認されているが個体数が極めて少ない。		
種 の 特 徴	全長約18cm。体はずんぐり型で、尾は短く、足は長め。体に茶、赤、緑、コバルト、黄、黒などの色がつき美しい。飛ぶと翼に白斑が出る。ポポビー、ポポビーと口笛のようにさえずる。		
分 布	旧北区、東洋区。日本では本州中部から九州の良く茂った森林に夏鳥として渡来するが個体数は少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥、一部夏鳥として讃岐山脈の良く茂った森林に渡来する。県内での繁殖例はごく少ない。渡来直後の5月ごろに鳴き声による観察例が増えている。ミミズなどを捕食する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息できる自然林が減少するなど環境が悪化している。		
特 記 事 項	国内希少野生動物、高知県・愛媛県・岡山県:絶滅危惧 I 類 (CR+EN)、徳島県:絶滅危惧 I 類A(CR)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	



被写体: まんのう町 撮影者: 川南 勉

サンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus</i> (サンショウクイ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
選 定 理 由	⑧* 夏鳥として渡来していたが、近年、春秋の渡りの時期以外の観察例がほとんどなくなった。		
種 の 特 徴	全長約20cm。体は細く尾が長目。ヒーラーリ、ヒーラーリと飛びながら鳴く。亜種リュウキュウサンショウクイは胸から脇にかけ灰黒色、声がピリピリと濁るので見分けられる。		
分 布	旧北区、東洋区。日本では本州、四国、九州に夏鳥として渡来する。近年リュウキュウサンショウクイは、四国西南部、九州南部以南で留鳥。		
県 内 で の 生 息 状 況	夏鳥として丘陵地、讃岐山脈の自然林などに渡来していたが、近年は春秋の渡りの時期に紫雲山などで群れて観察されることが多い。リュウキュウサンショウクイは繁殖記録はないが、冬期にエナガなどの群れに混ざって観察されることが多くなった。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	全国的に減少傾向があり、生息環境の悪化と推定されるが原因はよくわかっていない。		
特 記 事 項	高知県・愛媛県:絶滅危惧 I 類 (CR+EN)、徳島県:絶滅危惧 I 類A(CR)、岡山県:絶滅危惧 II 類 (VU)		
文 献	2, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	



被写体: さぬき市 撮影者: 片桐 実


ツリスガラ <i>Remiz pendulinus</i> (ツリスガラ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約11cm。雄は頭上は灰色で白い眉斑と黒い過眼線が目立つ。背は赤褐色。雌は頭上も過眼線も褐色味。地鳴きはか細くチーチーと鳴く。		
分 布	旧北区。日本には冬鳥として本州、四国、九州の海岸近くのヨシ原に渡来する。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として河口、海岸沿い、溜池のヨシ原で観察されるが見られない年もある。ヨシの茎に縦に止まり茎の鞘を嘴で剥いて中の虫を捕食する。ガマの穂をついばむ事もある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	河川工事等によるヨシ原の減少。		
特 記 事 項	岡山県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 水野寛美	




被写体: 観音寺市 撮影者: 福丸政一


\*選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>コガラ</b> <i>Poecile montanus</i> (シジュウカラ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 留鳥として観察されるが個体数は少ない。		 <p>被写体: まんのう町   撮影者: 吉村正則</p>
種 の 特 徴	全長約12.5cm。喉から下へ延びる黒い帯は短い、地鳴きは ツイー ツイー、ジェー ジェー、頭部と喉元の黒に光沢が無い。		
分 布	旧北区。留鳥として北海道、本州、四国、九州で生息する。		
県 内 で の 生 息 状 況	大川山、雲辺寺山で夏季にも確認されており、繁殖していると思われるが数は少ない。冬期には讃岐山脈の主稜部での観察がやや増える傾向にあるが低山での観察例は少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然林が減少するなど生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	—		
文 献	4, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 水野寛美	


<b>ゴジュウカラ</b> <i>Sitta europaea</i> (ゴジュウカラ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 留鳥として観察されるが個体数は少ない。		 <p>被写体: まんのう町   撮影者: 吉村正則</p>
種 の 特 徴	全長約13.5cm。雌雄同色。頭上から上面は青灰色で、白く細い眉斑、黒い過眼線がある。木の幹に縦に止まり、頭部を下にした逆さ移動もする。フィーフィーと鳴く。		
分 布	旧北区。日本では北海道、本州、四国、九州で留鳥。低山帯から亜高山帯にかけての森林に生息する。		
県 内 で の 生 息 状 況	大川山、大滝山などで留鳥として生息しているが数は多くない。冬期には琴平山で確認されたこともある。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然林が減少するなど生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	—		
文 献	4, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 水野寛美	

<b>キバシリ</b> <i>Certhia familiaris</i> (キバシリ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧* 留鳥として観察されるが個体数は少ない。		 <p>被写体: まんのう町   撮影者: 福丸政一</p>
種 の 特 徴	全長約13.5cm。雌雄同色、上面は茶褐色に白い縦斑、眉斑は白く過眼線は褐色、下面は白い。ツイー又はツリーと細い声で鳴く。		
分 布	旧北区。九州以北の山地の針葉樹林に留鳥として生息しているが数は多くない。		
県 内 で の 生 息 状 況	近年になり大川山などで繁殖が確認されるなど観察例がやや増加している。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然林が減少するなど生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県:絶滅危惧II類(VU)、高知県:準絶滅危惧種(NT)、愛媛県・岡山県:情報不足(DD)		
文 献	4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 水野寛美	

※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

カワガラス	香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
	環境省カテゴリー	—	
<i>Cinclus pallasii</i> (カワガラス科)			
選 定 理 由	⑦⑧* 留鳥として観察されるが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約22cm。全身が黒褐色で足は銀灰色。まぶたが白く眼を閉じると目立つ。幼鳥では体に白点がある。水面すれすれを直線的に飛びながらピッピッと鳴くことが多い。		
分 布	旧北区, 東洋区。屋久島以北の山麓から山地の溪流や湖畔に留鳥として生息する。		被写体: 高松市 撮影者: 谷上時彦
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥として主要河川の上流部の溪流で生息しているが数は少ない。水生昆虫やカニなどを捕食する。砂防ダムなど流れに段差がある箇所で営巣する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	森林開発などにより常に清流が流れる渓流域が減少している。		
特 記 事 項	-		
文 献	4, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 村井孝臣	

トラツグミ	香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
	環境省カテゴリー	—	
<i>Zoothera dauma</i> (ヒタキ科)			
選 定 理 由	⑧* 留鳥として観察されるが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約30cm。日本のツグミ科で最大級。全身黄褐色の地に黒の横斑や三日月斑がある。ヒー、ヒーと口笛のような声で鳴く。		
分 布	旧北区, 東洋区, オーストラリア区。留鳥または漂鳥として本州から九州の平地から山地の林に生息する。北海道では夏鳥。冬は暖地へ移動する。		被写体: 高松市 撮影者: 川南 勉
県 内 で の 生 息 状 況	留鳥として讃岐山脈などの山間部で繁殖しているが数は少ない。冬季には林縁部や樹木が多い公園でも見かける。落ち葉を掻き分け歩きながら、ミズや昆虫などを捕食する。木の実も食べる。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然林が減少するなど生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	徳島県・高知県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	5, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 村井孝臣	

コマドリ	香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	
	環境省カテゴリー	—	
<i>Luscinia akahige</i> (ヒタキ科)			
選 定 理 由	⑧* 旅鳥として渡来するが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約14cm。雄の胸や上面が鮮やかな赤褐色。雌は全体に淡色である。ヒンカラララと高らかにさえずる。		
分 布	旧北区。日本へは夏鳥として渡来し、九州以北で繁殖する。		被写体: さぬき市 撮影者: 谷上時彦
県 内 で の 生 息 状 況	旅鳥として山地に渡来する。春は4月中旬頃山間部でさえずりを聞くことが多いが秋の観察例は少ない。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	自然林が減少するなど生息環境が悪化している。		
特 記 事 項	愛媛県・高知県:絶滅危惧Ⅱ類(VU), 徳島県・岡山県:準絶滅危惧種(NT)		
文 献	4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	

※選 定 理 由: ①模式産地, ②分布境界, ③全国極限, ④県固有種, ⑤県内極限, ⑥交雑移行, ⑦限定生育・生息環境, ⑧近年減少, ⑨絶滅

コサメビタキ		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由		⑧* 夏鳥として渡来するが個体数は少ない。	
種 の 特 徴		全長約13cm。サメビタキ属中最小。体の上面はやや褐色味のある灰色。下面は白く、不明瞭な頸線と胸に不明瞭な縦斑がある。さえずりは、小聲で複雑である。	
分 布		旧北区。日本へは夏鳥として渡来し、九州以北で繁殖する。	
県 内 で の 生 息 状 況		夏鳥として自然林が残る山地に渡来し、繁殖するが数は少ない。秋の渡りの時期に平地でも短期間滞在するのがみられる。	
絶 滅 危 険 性 の 要 因		自然林が減少するなど生息環境が悪化している。	
特 記 事 項		高知県:準絶滅危惧種(NT)	
文 献		7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘



被写体: 三豊市 撮影者: 福丸政一

カヤクグリ		香川県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由		⑦⑧* 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。	
種 の 特 徴		全長約14cm。頭部から下面は暗灰褐色。背、腰、尾は茶褐色。頬にはうっすら模様がある。チリリと鈴のような声で鳴く。	
分 布		旧北区。北海道、南千島、本州、四国の亜高山帯から高山帯の低木林、ハイマツ林に生息する。冬は北海道や高山帯のものは暖地へ移動する。	
県 内 で の 生 息 状 況		冬鳥として山間部に渡来するが数は少ない。小型の昆虫、幼虫類、クモ、草や木の種子などを採餌する。	
絶 滅 危 険 性 の 要 因		自然林が減少するなど生息環境が悪化している。	
特 記 事 項		徳島県・愛媛県:絶滅危惧II類(VU), 高知県:準絶滅危惧種(NT)	
文 献		5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 村井孝臣



被写体: さぬき市 撮影者: 谷上時彦

ハギマシコ		香川県カテゴリー	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリー	—
選 定 理 由		⑦⑧* 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。	
種 の 特 徴		全長約16cm。額、喉、胸は黒つぼく、背、翼、腹は赤紫色。後頭から首にかけて淡黄褐色。飛びながらジュン ジュン、ピーピーなどと鳴く。	
分 布		全北区。日本には冬鳥として全国に渡来するが西日本には少ない。シベリアからカムチャッカ半島アラスカの山地で繁殖。	
県 内 で の 生 息 状 況		冬鳥として平地から山地の林、崖地、農耕地などに渡来するが数は少なく、見られない年もある。ハギやエノコログサ、イタドリなど雑草の種子を採餌する。	
絶 滅 危 険 性 の 要 因		生息環境が、開発などにより悪化している。	
特 記 事 項		—	
文 献		8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 山下幸子



被写体: まんのう町 撮影者: 吉村正則

※選定理由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④県固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅

<b>オオマシコ</b> <i>Carpodacus roseus</i> (アトリ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約17.5cm。雄は全身濃い桃紅色で額と喉が銀白色。背に黒い縦斑と白い羽縁がある。雌は頭と胸にやや赤色が交じるが、全体的に淡褐色で黒く細かい縦斑が胸から腹にかけて目立つ。		
分 布	旧北区。冬鳥として渡来するが数は少なく西日本での記録は特に少ない。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として渡来する。主に大川山などで小群が観察されている。見られない年もある。木の実や雑草類の種子を採餌する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	生息環境が、開発などにより悪化している。		
特 記 事 項	—		
文 献	8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 山下幸子	



被写体: まんのう町 撮影者: 谷上時彦

<b>イスカ</b> <i>Loxia curvirostra</i> (アトリ科)		香川県カテゴリ	絶滅危惧II類 (VU)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑦⑧※ 主に冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約16.5cm。嘴が先端で上下に曲がり交差する。雄は体が褐朱赤色、翼と尾羽は黒褐色。雌は体が黄緑褐色、翼と、尾羽は灰褐色。		
分 布	全北区。多くは冬鳥として、九州以北の低地から山地のマツやモミの林に渡来する。本州中部以北の山地、および四国で冬の繁殖記録がある。		
県 内 で の 生 息 状 況	主に冬鳥として大川山、大麻山で数年おきに観察されているが、数は少ない。幼鳥が観察されるなどの繁殖例がある。樹木の種子(特にマツの種子を好む)を採餌する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	アカマツやモミなどの森林環境が悪化している。		
特 記 事 項	—		
文 献	5, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘, 村井孝臣	



被写体: まんのう町 撮影者: 福丸政一

<b>ホオアカ</b> <i>Emberiza fucata</i> (ホオジロ科)		香川県カテゴリ	準絶滅危惧 (NT)
		環境省カテゴリ	—
選 定 理 由	⑧※ 冬鳥として渡来するが個体数は少ない。		
種 の 特 徴	全長約16cm。雄は頭から後頭が灰色。頬の赤褐色が特徴。下面は白くて胸に黒色と褐色の2本の横帯がある。雌は全体に色が鈍い。地鳴きはチツ、チツと鳴く。		
分 布	旧北区。北日本では低地の草原、本州中部以南では高原で繁殖。冬季は西日本の平地でも見られる。		
県 内 で の 生 息 状 況	冬鳥として溜池の堤防、河川敷の草地、休耕田などに渡来するが多くはない。単独か小群で地上をはね歩き、イネ科などの実を採餌する。		
絶 滅 危 険 性 の 要 因	溜池の堤防、河川敷の草地、休耕田などの生息環境が悪化している		
特 記 事 項	高知県: 絶滅危惧II類 (VU), 愛媛県: 準絶滅危惧種 (NT)		
文 献	4, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17	執筆: 川南 勉, 大川庫弘	



被写体: 高松市 撮影者: 谷上時彦

※選 定 理 由: ①模式産地、②分布境界、③全国極限、④固有種、⑤県内極限、⑥交雑移行、⑦限定生育・生息環境、⑧近年減少、⑨絶滅



◎ 鳥類 ◎

文 献

- 1 第53回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記念誌編集委員会. 1999. かがわの野鳥. 香川県. 高松
- 2 環境省レッドリスト2019
- 3 大阪府鳥類目録2016
- 4 岡山県版レッドデータブック2009
- 5 徳島県版レッドデータブック2010 (<https://www.pref.tokushima.lg.jp/file/attachment/463434.pdf>)
- 6 愛媛県レッドデータブック2014
- 7 高知県レッドデータブック2018 動物編
- 8 かいつぶり. 日本野鳥の会香川県支部会誌
- 9 Woodpecker. 香川県野鳥記録. 研究報告等. 香川の野鳥を守る会. 1~3号
- 10 日本野鳥の会香川県支部. 1996. 香川の野鳥ウォッチングガイド. 四国新聞社
- 11 日本鳥学会. 2015. 日本鳥類目録. 改訂第7版. 日本鳥学会
- 12 高野伸二. 2015. フィールドガイド日本の野鳥. 増補改訂新版. 日本野鳥の会
- 13 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>. 保育社
- 14 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>. 保育社
- 15 吉井正. 1988. コンサイス鳥名辞典. 三省堂
- 16 真木広造・五百澤日丸・大西敏一. 2014. 日本の野鳥650. 平凡社
- 17 財団法人日本鳥類保護連盟. 2002. 鳥630図鑑 増補改訂版. 財団法人日本鳥類保護連盟
- 18 森岡 照明, 1998, 日本のワシタカ類, 文一総合出版
- 19 清棲 幸保, 1952, 日本鳥類大図鑑(第1~3巻), 大日本雄弁会講談社